

## オリジナル品種開発方針の検討について

資料2

- ◎オリジナル品種は、農林水産物の品質や収量性を高めるだけでなく、本県の地域性を特徴づけ、産地のブランド力維持・向上に寄与してきた。
- ◎「オリジナル品種の開発に関する基本戦略と実践計画」を平成22年度に策定した。その後、温暖化の更なる進行や新たな品目のニーズの高まり、DNA情報の蓄積など、品種開発を取り巻く環境が変化している。
- ◎戦略的に品種開発を進めるため、環境変化に即した品種開発方針を検討する。

### オリジナル品種の開発に関する基本戦略と実践計画（H22年度）

○**基本戦略**：3つの推進方向によりオリジナル品種開発を推進

- ①科学技術の進歩を踏まえた品種開発技術の強化 → DNAマーカー選抜育種の活用
- ②自然・社会環境の変化を踏まえた品種開発の推進 → 地球温暖化等への対応
- ③技術経営的視点での品種開発マネジメントの強化 → 生産から販売まで一貫した戦略

○**実践計画**：・これまでの品種開発経過を検証し、短期・中長期・長期の品種開発目標を設定  
・併せて育種手法（DNAマーカーの利用・開発計画を含む）や育種体制・種苗の供給体制を取りまとめ

○実践計画を策定した品目

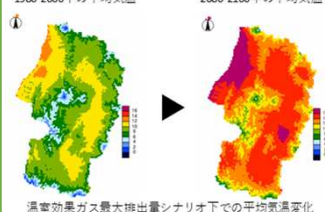
分野	策定品目
土地利用型作物	水稻、そば
果樹	おうとう、りんご、西洋なし
野菜・山菜	いちご、食用ぎく、たららの芽、ふきのとう
花き	りんどう
畜産	種雄牛
水産	かに類
林産	スギ、クロマツ、菌茸類

策定後、研究情勢・社会情勢等は大きく変化（下記①～③）

#### 変化① 社会情勢の大きな変化

- ・温暖化のさらなる進行
- ・肥料・農薬等、農業資材価格の高騰

1980-2000年の平均気温 2080-2100年の平均気温



○農作物価指数（令和5年6月）  
（令和2年=100）

品目	指数
農業生産資材（総合）	121.7
うち肥料	148.4
飼料	146.9
農薬	113.4

社会情勢の変化に対応した品種の開発が重要

#### 変化② 新たな品目のニーズの高まり

○育種開始したが実践計画が未策定の品目

品目	育種開始年
ぶどう	H30
サクラマス	

○育種が終了した品目

品目	備考
食用ぎく	山園K4号（菊名月）育成をもってH24課題終了
かに類	当初目標が概ね達成したためH25課題終了 現在は、放流用種苗を育成している

新たに育種を開始した**ぶどう**、**サクラマス**の育種目標を整理し、**戦略的に品種開発を進める**必要がある。

#### 変化③ DNAマーカー開発・利用が進展

○育種に利用されているDNAマーカー

品目	マーカーの種類
水稻	いもち病・縹葉枯病抵抗性、低アミロース性、カドミウム低吸収性
おうとう	自家不和合性、 <b>果実重</b> 、 <b>果肉色</b> 、 <b>収穫期</b> 、 <b>肉質</b> 、 <b>裂果性</b> 、 <b>外観</b>
りんご	自家不和合性、果皮色、肉質、斑点落葉病・黒星病抵抗性、収穫前落果性
西洋なし	自家不和合性
ぶどう	果皮色

※ 赤字は本県で開発したDNAマーカー

**DNAマーカーの利用・開発を進める**必要がある。

（参考）おうとうのDNAマーカー開発の現状  
両親と全交雑実生のDNAを抽出  
→ 次世代シーケンサーで全塩基配列を決定  
→ 表現型と連鎖するDNAマーカーを探索

戦略的に品種開発を行うため、「基本戦略と実践計画」の育種目標や研究開発目標の達成状況について評価・検証  
→ 課題抽出 → 品種開発方針の検討